

(第6号様式)

北海道景観づくりサポート企業 取組状況報告書

令和2年 5月18日

北海道知事様

登録番号 第56号

名称 中塚建設株式会社

代表者名 代表取締役 中塚徹朗

北海道景観づくりサポート企業登録制度実施要綱第11条の規定により、取組状況を報告します。

項目	景観を楽しむ機会の充実
期間	① 令和元年8月25日（日） ② 令和元年5月3日（金） 令和元年10月20日（日）
取組概要	<p>① 千軒そばの花観賞会への協力 そば畠が真っ白な花で満開になるのにあわせ、そばの花だけでなく、地域の文化である松前神楽の奏上も同時に観賞できる場を設けアピール。また、地元の愛好会による歌のステージも開催。</p> <p>② 殿様街道ウォークin春・秋への協力 江戸時代に松前藩の藩主らが通ったとされる通称『殿様街道』で歴史を紐解きながら自然を楽しむウォークを開催。 これらイベントを主催する会の副会長として当社社長が参画。また社有地の提供や社員が積極的に参加・協力するなど地域の景観アピールに努めている。</p>

項目	景観資源の維持保全活動
期間	令和元年9月7日（土）
取組概要	「北海道魚道研究会」主催による「魚道清掃ボランティア」への参加及び協力。 当社専務が副理事長となっている「北海道魚道研究会」では毎年道内各地の河川にある魚道の清掃ボランティアを実施しており、今回は福島町の桧倉川で開催された。当社ではボランティアへの参加だけでなく事前の準備から当日の運営まで協力を行った。

注) 内容はできるだけ具体的に記入し、取組内容が分かる参考資料（写真、報道記事の写しなど）があれば添付してください。

北海道通信

2019年(令和元年)8月27日 【火曜日】

各企業等の社会貢献

福島町のソバ畠で松前神楽

中塚建設が舞台裏支える

地域活性化へ17回目の鑑賞会

【函館発】白い花が満開 となつたソバ畠で松前神楽も中塚建設(福島、中塚社長)が運営に協力。例年より多い300人余りを楽しむ「千軒そばの花鑑賞会」が25日、福島町千軒地区で開催された。今回で17回目を迎えたが、ことし千軒そばをはじめとする



白い花が満開の中、厳かな舞が披露された



くす玉を割り、国の重要無形民俗文化財指定1周年を祝った

と巫女役の地元の中学生2人が厳かな舞を披露。神樂初、二羽散米舞、八乙女舞、荒馬舞、三番叟舞、獅子舞の六座を演じ観客を

地元産品のPRを目的に、ソバの花が満開を迎えることの時期に毎年開催。中塚建設は第1回から協賛し、会場設営や当日の運営、後片付けにも携わっている。

ことは、函館からの帰りバスツアーが初めて企画され、46人が参加。函館市根岸地区からも20人余りの団体客が訪れたほか、

松前神楽は昨年3月、国際重要無形民俗文化財に指定されたが、令和という新しい時代を迎える中で1周年を祝おうと、くす玉を開割れると、伊能忠敬銅像建

立1周年も合わせて祝う垂幕が現れ、大きな拍手が沸き上がった。このあと、白く染まった2・5畝のソバ畠を舞台に、保存会のメンバー5人に、保存会のメンバー5人が司会進行や受付、駐車場の誘導、接客に汗を流し、イベントを支えた。

地元振興局の佐々木徹局長や熊谷操東部森林室長、青候」との掛け声と拍手が送られていた。会場内では、千軒そばや地元産のジャガイモの塩煮、カボチャ、トウモロコシが振る舞われ、来場者は福島ならではの味覚を堪能した。ジャガイモ畠体験や丸太切り競争、写真コンテスト、カラオケ大会なども催され、盛況のうちに終わった。

同社は、前日から神楽の舞台やカラオケ大会のステージを設営。くす玉の制作も、主体となつて進められた。

当日は役職員7人が司会進行や受付、駐車場の誘導、接客に汗を流し、イベントを支えた。

後志管内や胆振管内からの来場者もいた。また、渡島と、観客からは出来栄えを褒める「よーそうー(よき)

魅了した。各演目が終わると、観客からは出来栄えを褒める「よーそうー(よき)

と、観客からは出来栄えを褒める「よーそうー(よき)

各企業等の社会貢献



【函館発】「第27回殿様
街道探訪ウォーク in 春」

中塚社長がガイド
を務め、地域の歴史を解説した

伊能忠敬や土方歳三らも
通ったとされる古道。現在
では春にカタクリや
シラネアオイなどの
草花を楽しむことの
できる山道となっ
ている。

今回は「榎本武
揚・土方歳三の道」
と題し、福島町史研

地域の歴史、文化を満喫

福島町で殿様街道探訪ウォーク

中塚建設・中塚社長がガイド

が3日、福島町千軒で開催された。中塚建設(福島)の中塚徹朗社長が副会長を務める福島町千軒地域活性化実行委員会の主催で、道南地域だけでなく道内各地から総勢約150人が参加。ことしは戊辰戦争終結150年に当たることが加。ここには、伊能忠敬や土方歳三をテーマに歴史の道を散策した。

殿様街道は江戸時代に松前藩主らが往来した道で、前藩主らが往来した道で、

軍と新政府軍の攻防について

研究会の会長でもある中塚社長が侍姿で歴史解説を実施。箱館戦争の際に大砲2門が設置された砲台跡では、土方歳三率いる旧幕府

軍と新政府軍の攻防について説明した。このほか、イベントは渡島総合振興局西部森林室と共に、神馬昭男室

約7キロのコースを4時間ほどかけて歩いたあと、参加者は千軒産のそば粉を抹茶が振る舞われ、思わずサービスに参加者の疲れも癒されていた。

「貴重な歴史の道を歩くことができ、とても良かつた」と話していた。

北海道通信

2019年(令和元年)5月14日【火曜日】

長らが街道途中にある樹齢200年のブナの巨木など

後には、昨年国の重要無形民俗文化財に指定された松前神楽を鑑賞し、この日一日で地域の自然や歴史、文

化、食を満喫していた。

古道めぐりが好きで旭川市から列車とバスを乗り継いで来たという参加者は

前神楽を鑑賞し、この日一

日で地域の自然や歴史、文化、食を満喫していた。

古道めぐりが好きで旭川

市から列車とバスを乗り継

いで来たという参加者は

前神楽を鑑賞し、この日一

北海道新聞

2019年(令和元年)10月24日(木曜日)

昔に思いはせ山道散策

福島 殿様街道ウォークに70人

【福島】松前藩主らが通

つたとされる旧街道を歩く

「第28回『殿様街道』探訪

ウォーク in 秋」(町千軒

地域活性化実行委主催)

20日、町千軒の大千軒岳麓

で開かれた。旭川や函館な

ど町内外の参加者約70人が

紅葉で彩られた山道の散策

を楽しんだ。

一行は樹齢200年以上のブナの木や茶屋跡などを4時間ほどかけて巡った。紅葉の名所「四十八瀬」では、町史研究会の中塚徹朗会長が「(同街道を通ったとされる)伊能忠敬がこの場所を測量した記録が残って

いる」と解説。参加者らは驚

いた様子で耳を傾けた。
下山後には「千軒そばの会」の販賣らが打った町特産の新そばを味わいながら、松前神楽を観賞した。

旭川から参加した村井英

敏さん(67)は「『四十八瀬』がとても印象的。この街道を通ったと聞いている自分の遠い先祖に思いをはせながら歩いた」と笑顔で語った。(井代圭祐)



紅葉を眺めながら旧街道を散策する参加者ら

道魚道研が檜檜川でボランティア

木製の簡易魚道を設置

機能回復へ河床改良と清掃も

北海道通信

2019年(令和元年)9月10日【火曜日】



事長）は7日、福島町内の檜檜川で清掃ボランティア活動を実施した。渡島・檜山地区では15回目となるも

この日、会員と渡島総合振興局林務課、渡島西部森林室、渡島東部森林室の職員合わせて60人が参加。檜川の魚道整備に携わったといふ、福島町の鳴海清春町長も駆けつけた。

活動に当たり渡島西部森林室の松田弥室長は、北海道胆振東部地震の犠牲者に哀悼の意を表した上で、防災と自然環境の維持の重要性を指摘。「魚道の整備および維持管理に協力を」と呼びかけた。

鳴海町長は「檜檜川は隠れたアユの名

魚が遡上できるよう、部材を組み合
わせて5・4mの簡易魚道を設置し

た

魚道につながる下段では、河床に小割石、砂利、砂を敷き詰めて魚が通れるルートを確保。残暑で蒸し暑い気候のもと、砂利と砂を土のうに詰め、割石や土のうを手渡して運ぶ作業を

精力的に行つた。

ので、北森建設前支部との共催。今回は魚道の清掃に加えて木製の簡易魚道設置と河床の改良も行い、魚道機能の回復を図った。

清掃ボランティアは毎年、渡島・檜山のほか、道央、日高、根室など全道各

地区で実施している。渡島・檜山地区については、同研究会設立当初から活動を開いている。

奈良哲男副理事長、中塚卓朗副理事長から作業手順について説明を受けたあと、上下流の2ヵ所に分かれて作業。上流では10人が堆積物の除去、下流では50人が簡易魚道の設置と河床の改良に汗を流した。

簡易魚道は既存の施設が

土砂等で埋まつて除去が難しく、可動堰も動かない状況を踏まえ設置した。

会員のコンサル企業と建設業者が、設計と魚道の各部材の製作を事前に進めた。

高さ1・5mの堰に魚が遡上できるよう、30%の勾配で設置。幅90cm、長さ5・4mの本体部を台上に固定し、手製の魚道を完成させた。

所で、京都から釣りに来た人に会つたこともある」と

のエピソードを紹介し、その環境を保全する活動に謝意を表明。「魚がのぼれる環境が整つよう」と期待を寄せた。